

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071401717
法人名	株式会社 あおいホーム
事業所名	グループホーム あおい (ユニット名 1F)
所在地	福岡市早良区西入部2-7-20
自己評価作成日	平成30年1月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成30年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昔の懐かしさが残る環境に恵まれ、庭園には畑もあり、季節の野菜の収穫も楽しみのひとつである。朝の外気浴は、身体的・精神的にも入居者の健康の源になっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は自然豊かな場所に位置しており、野鳥が泳ぐ河川が流れていたり、キャベツ畑が広がったりしている。開設して13年目を迎え、利用者の心身状況も変わっていく中で、日常をより豊かなものとするために、できる限りの庭先での外気浴や、食事の楽しみに力を入れている。特に、四季の節目を感じることができる工夫が、ふんだんになされた行事食を提供している。クリスマスには家族や地域の方々を招待して、ビュッフェスタイルでパーティーを開催している。利用者の心身状況にあわせた食事形態も用意しており、希望に添う努力がなされている。日々のレクリエーションでは、1階と2階の利用者が交流しており歌声や笑顔の絶えない事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	あおいの理念及び基本方針は、設立以来変わらず、全職員が十分に理解し、朝礼で唱和し1F2Fの玄関や事務所に掲示している。	随所に理念と基本方針を掲げてあり、職員はその人らしく生活することを念頭に個別ケアを実践している。生活リズムも個々の時間に合わせて対応している。家族から、理念に基づくケアの実践をしていると称されており、家族に対しても理念を反映した支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事等には地域の方々をお誘いし、ボランティアの方は殆ど毎日入居者の話し合い話し相手になって頂いている。2ヶ月に1回開催している運営推進会議も地元の方を招き交流を兼ねている。	近隣の付き合いは大切にしており、気軽に立ち寄ってもらうよう声を掛けている。花が咲いたという知らせで、職員が通勤途中に立ち寄りもらえることができる関係にある。地域の施設や老人クラブ等で「よかとこネット」を立ち上げ、情報交換にも努めている。近隣の消防学校とは行事の際の駐車場確保等協力を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当施設のパンフレットや機関誌等を地域の方や事業所に配布・郵送している。入居に関する問い合わせには見学を呼びかけ、施設での暮らしを知って頂き、地域の方にとっての支援を考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、地域の民生委員・地域包括支援センター・訪看ステーション理事長・家族会の代表2名の出席を得て、あおいの職員(看護師・介護士)より入居者の状況報告も兼ね活発な意見交換を実施している。他施設からの参加も歓迎している。	運営推進会議では、敷地内のデイサービスと共に事業所の現状を報告している。地域より、独居高齢者の支援依頼を受け、事業所に来ることに抵抗が無いように、行事の誘い等から知ってもらうきっかけ作りをした事例がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市・地域包括との連携を密にして、情報交換をしている。	区役所に、自施設の現状を伝えて適正に運営がなされているかを見てもらっている。市から依頼を受け、看取りケアのモデル事業所として、協力事業所の訪問看護と共に、グループホーム協議会で実績報告をするなど協力している。地域包括支援センターとはよく連絡を取り合い地域の情報をもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、あくまでもしないと言う職員全体の意識を強く持ち、自然で穏やかな生活を送って頂く為の工夫を考え、外部の研修等も生かしている。	内部研修を毎月25日に行い、外部研修報告を含め職員の意識を高めている。利用者の行動を制限することなく職員が寄り添い、支援している。常に利用者の意向に沿いながら、安全面も考慮して、身体拘束とは何かについて、正しい知識を持つように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修・内部研修を踏まえ、不適切なケアを行う事の無い様、職員の介護に対する意識を高め、お互いストレスを溜めないように声かけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、グループホーム協議会及び研修等で権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を得る。その成果を研修報告として職員会議等で職員に伝える様にしている。	市の研修へ職員が出席し、情報を他職員へも周知し権利擁護に関する制度の理解を深めている。ポスターを貼り、啓発にも努めている。問い合わせがあった場合は、個別にパンフレットを渡し施設長が説明している。現在、制度を活用している利用者があり、家族を介して、弁護士や司法書士との連携も取っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約又は改定等の際は、利用者の家族に充分説明し、理解納得して頂き了解を得る。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が気軽に面会に来やすい雰囲気や環境作りを心掛け、職員としてのコミュニケーションを図りながら、利用者の様子や家族の意見等を参考にしてケアプランに生かしている。	玄関に意見箱は設置している。来所する家族に日々の様子を伝えながら、事業所への要望や意見を聞いたり、遠方の家族には電話で聞く機会を設けている。家庭菜園のやり方を習ったり、芝生の剪定など協力を得たりしながら利用者が楽しんで生活できる環境作りをしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の職員全体の会議を実施している。終了後は各階においてフロアミーティングを行い、職員間の意見を出し合い運営に反映させている。	施設長自らの面談があり、業務の要望や意見を伝える機会がある。日頃は、ホールに集まって食事をするため使わなかったオーバーテーブルについて、インフルエンザ蔓延の防止策として、一時的に各居室での食事をするために必要との職員の意見で、すぐに購入してもらった事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や勤務状況を把握し、給与水準を検討し、個々がしっかり自分の能力を発揮し仕事が出来る様な環境を作りたいと考えている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	管理者として、職員の採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しない様にしている。又、職員が働きやすい環境を作るべく個々の能力を発揮し易い勤務体制を作りたいと考えている。	職員の希望休暇は取得しやすく、家庭との両立においても働きやすい環境にある。職員希望の研修や講演会などは相談することで参加可能である。他職員と重複する場合は、当人同士で調整している。利用者の状態や、職員の体調面から二人介助を要する場合など臨機応変な配置がなされている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員の外部研修への参加を促し、入居者に対しての対応・言動・一人ひとりに尊厳を持って介護に当たる様に指導している。	利用者との信頼関係を築く上で、常に人生の先輩として尊重するケアをしている。認知症の症状等により言葉づかい等についても配慮をしている。市の研修に参加したり、職員同士でも注意しあったりして、人権尊重に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	イベント等の企画を担当する事により、職員一人ひとりの実力を確認し合い全体的に能力を高めている。行事等の主旨を理解し、各担当の責任を個々で感じてもらう。内外の研修を受ける機会の確保に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の同業者との交流や勉強の場として「いとの会」を設け、視野を広めネットワーク作りに役立てている。各研修も他施設との交流の場としている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至り疑問や不安は安心できる様、コミュニケーションが取れる雰囲気作りに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来所時には家族へ近況報告を行い、家族の要望を伺いながらコミュニケーションが密に取れる様に努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、当ホームの特徴を伝え本人や家族の希望に合うか判断して頂いている。又、個別のサービスの希望があれば、出来る限りの支援が出来る様努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの状態に応じ、できる事できない事を把握し、お手伝いをして頂いている。又、年間の行事を通しスタッフと一緒に行事で使用する折り紙や食材の皮むき等をスタッフと一緒にやり、お互いに助け合う関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族来所時の近況報告はもとより、お誕生日会やクリスマス会に家族の参加を呼びかけ、一緒に過ごして頂きながら共に支え助け合える関係を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族・親戚・知人の面会時は、場所(居室・ホール・庭園)にも配慮し、ゆっくり過ごして頂ける様に心がけている。 日々の関わりの中で、ご家族との話の中から得た情報は記録に残し職員間で共有している。	近所から入所した利用者には、友人がふらりと立ち寄ることがある。職場の同僚や、後輩等の訪問もあり、また来てもらえるように配慮をしている。家族の協力も得ながら自宅に帰る利用者や、情報を基にお寺の坊守さん達と交流をしたり、利用者の好きな場所へ出かけたりにして、これまでの関係の継続を支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の人間関係を把握し、自然な関係が出来る様無理に介入せず見守りを重視している。お互いに支え合う様な支援に努めている。入居者が入居者のお世話をしたり、微笑ましい光景も伺える。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当ホームを退居された後もご家族が寄って下さったり、年賀状等で近況を知らせて下さる。こちらからお見舞いに伺う事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時や定期的なアセスメントにより本人の志向や希望を聞き、その人らしい暮らしが出来る様心がけている。聞き取り困難な場合には家族に尋ねたりして検討・対応をしている。	利用者との会話を多く持ち、その言葉の中から思いの把握に努めている。意思疎通が困難な方は日々の関わりの中で一瞬一瞬の表情や、家族から入居前の生活、職業などの情報を得て希望に添うように対応している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの習慣などの生活歴を重視し、ホームで続けられる事は継続できる様に支援を行っている、		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の出来る事やしたい事など、日頃の会話の中で聞き出したり、日々の行動を観察する事で心身の状態の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスや状態の変化が見られた時は家族やスタッフと話し合いを持ち、必要に応じて訪看や医師に相談し意見を聞きながら介護計画作成を行っている。	利用者を担当制にしており、毎朝のミーティングや月1回行うカンファレンスで利用者の状態を職員全員が把握している。介護計画は、利用者や家族の訪問時に意向を確認しながら作成している。遠方の家族には、電話で意向の確認をしている。計画の見直しは、定期及び状態に変化があった時に、その都度見直しをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その都度気づいた事は必ず記録し、対応についての検討や見直しをしている。計画の変更や工夫など実践した事を個別記録に記入し、スタッフ間の情報を共有出来る様にしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	年間行事や入居者の誕生会等、地域の方々や家族の方をお招きして一緒に楽しむ事が出来る様に努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	主治医の往診や訪問看護ステーションとの連携をとり日常の健康管理に努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科・精神科・歯科・眼科の往診を受けている。訪問看護ステーション24時間体制の医療連携を結んでいる。	利用契約時に事業所協力医の往診が定期的に受けられることを説明している。入居前のかかりつけ医への受診や往診を受けている方もいる。24時間訪問看護との連携が取れる体制にあり、急な体調変化にも適切な医療を受けられるように支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の日常の変化等の情報は、スタッフ全員が共有出来る様に申し送り等で徹底している。週1回の訪看訪問時や急を要する時は電話で相談指示をもらい対応している。毎月職員会議後のフロアミーティングで話し合いをしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時より訪問看護・家族との話し合いの場をもっている。 退院後のリハビリや対応について医師を含め相談している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族とは年2回位の割合で面談を行っている。又、面会時に状態の報告を行っている。	重度化や終末期についての意向は、利用契約時とその後定期的に家族と面談し確認している。医師や訪問看護との連携体制も整っており、24時間支援を受けることができている。終末期には家族が宿泊でき食事の提供もあり、事業所での看取りを希望する家族が多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い、出火の時間(夜間・日中)出火場所を変更し避難経路を把握している。地震や水害についても避難場所や経路は把握している。近隣の消防学校との協力体制がある。	消防署立会のもと、日中と夜間を想定して火災訓練を利用者と一緒に行い、近隣の協力体制もある。職員全員が、避難経路や敷地内の倉庫にある備蓄品についても把握している。緊急通報やスプリンクラー、消火器等、必要な消防設備を整えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライバシーを損なわない様に、言葉遣いや対応に注意し、その人らしく生活出来る様に無理強いはいしない。	日頃から人格を尊重し、誇りを損なわないような言葉使いを心がけている。職員同士で、相応しくない支援場面を見受けた時には、注意したり話し合ったりして研鑽に努めている。排泄など支援が必要な時には、特に羞恥心への配慮に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望やどうしたいのか、じっくり聞いて希望に添える様に心がけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の中で一人ひとりのペース(起床時・レクの参加・就寝)を把握し、どの様に生活をしたのか希望を優先し支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回訪問美容室をお願いしている。行事ではお化粧品・髪型・服装のコーディネート・アクセサリー等のおしゃれの支援をしている。外出時にも身だしなみに気を付けている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューや食材の話しながら食事をして頂いている。季節の旬の食材(ふき・つくし・筍・柿)の皮むき等一緒に楽しみながら準備をしている。食後にはお盆拭きのお手伝いをして頂いている。	事業所の畑と一緒に収穫した野菜を調理することもあり、季節感を大切にしている。利用者は、調理の下準備やテーブル、お盆拭き等できることを手伝っている。気候が良い時は庭で食事をすることもあり、おやつ作りや干し柿を作ることも楽しみとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食事形態(普通食・キザミ食・ミキサー食)や病態治療食を取り入れている。個々の水分摂取量を記録している(毎食後・10:30・入浴後・おやつ)水分にムセがある方もトロミをつけている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に応じた援助方法を理解している。毎食後に口腔内・舌のケア・磨き残しの確認を行う。口腔ケアティッシュやスポンジブラシを使用している。義歯使用の方は夜間のみホリデント消毒を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや時間毎に誘導・声掛け・介助を行っている。 夜間はオムツを使用しているが、日中はトイレ誘導を行っている。	排泄の意思表示が不明の方が多いところではあるが、時間ごとの誘導と、表情や動きから察して早めの声かけによりトイレでの排泄支援を行っている。夜間はオムツを使用している方が多いため、朝には洗浄をしっかりとこない、皮膚トラブル防止に努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、ラジオ体操・リハビリ体操を行い体を動かす様にしている。 一人ひとりの水分量を把握している。 食事には食物繊維が多く含まれている材料を取り入れている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は午後から行っている。 入浴前に体調確認やバイタルの測定を行っている。 拒否がある場合は、日時をずらしたり声かけによりスムーズに入浴をして頂ける様に心がけている。	入浴は毎日午後から行い、週3回は入浴の支援をしている。衣服を汚染した時等はいつでも入浴ができる。体調により清拭やシャワー浴に変更することもあり、希望の場合は毎日入浴をする方もいる。入浴を拒まれる場合には、時間をずらしたり声かけを工夫したりして対応している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を把握し、体調や状況により自由に休憩出来る様に支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を理解し、処方内容の変更等があった時は職員間で情報を共有し、内服後の状態変化は十分観察を行っている。主治医にも報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や得意なことを把握し、パズル・新聞折り・歌やレク等役割を持つことで、楽しく生活出来る様に支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調に配慮しながら、中庭で外気浴・レク・体操・歌・屋外食を行っている。特養あおいで行われているお茶会に参加している。	天候をみながら、庭に出て日光を浴びたり、風にあたり、周りの景色で季節を感じられるようにしている。花見にでかけたり、ファミリーレストランで外食をすることもあり、ショッピングなどは家族の協力を得て出かけられるように支援している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来ない為、使用する場合は事前に家族に了解を得て使用する。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をかけたいと要望があれば、了解を得て話され安心される。携帯電話を預かり、家族からの電話を取り次いでいる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間の整理整頓に努め、季節の花を飾ったり、壁に行事の写真や花の貼り絵を貼って楽しんで頂いている。	庭には庭木や菜園・花壇があり、利用者が集う食堂兼リビングの大きな掃き出し窓から、適度な採光を受けながら景色を眺めることができる。壁には、月々の行事の写真や利用者と一緒に作った季節の貼り絵を飾っており、家族が訪問した時に事業所の様子がわかるようにしている。	壁面の月々の行事の写真や飾りで、利用者が今の季節を戸惑わないような工夫について、今一度、検討する機会を持つことを期待したい。
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内で過ごされている事が多い為、TV前にソファを置きTVを観たりカラオケを楽しんで頂いている。 テーブル席では一人でパズルや読書、窓側のソファで新聞を読んだりされている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族との写真や思い出のある物を居室に飾っている。	居室には家具や仏壇、鏡台など利用者の思い出の品を持ち込んでいる。家族や好みの風景写真、手作りの作品を飾り、利用者のこれまでの暮らしを大切にして、自分らしく過ごせるように工夫している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態に合わせ、配席に配慮し、歩行の障害にならない様に配置し、安全に努めている。		